



学校だより 神橋

しょうがっこう
小学校

令和5年6月30日

よこはま しりつ かみはし
横浜 市立 神橋

学校 HP QR コード



7月号

水泳で思い出すこと

こうちやう はんじ たまみ
校長 判治 珠美

先日 は 数年ぶりに 学校説明会 を 集合形式で 開催いたしました。保護者の皆様と顔を合わせて直接学校の方針や取組をお伝えし、ご理解いただきたい、という思いからでしたが、当初の予想を越えるたくさんの方がご参加くださり、大変うれしく思いました。ありがとうございました。今後も、保護者の皆様、地域の皆様とつながりながら、共に子どもたちの成長を支援していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

6月20日から、今年度の水泳学習が始まりました。昨年度は、感染予防対策中で、3年ぶりの水泳学習ということで、回数も控えていましたが、今年度は各学年5回の実施を予定し、安全で楽しい水泳学習を計画しています。

水泳と言えば、私は小学校5・6年生の時に、夏休みの水泳教室に通っていました。5年生の時に先生に背泳ぎを勧められ、毎日毎日練習し、その頃は夏休み明けに行われた区の水泳大会に出場しました。がむしゃらに泳いで、ゴールの壁に思いっきり頭をぶつけたのを覚えています。その甲斐あってか大会新記録で1位になることができました。今でも泳ぐのは大好きです。

そんな経験から、自分の3人の子どもたちも泳げるようになってほしい、水泳を好きになってほしい、という思いで、小学生になったときに近隣のスイミングスクールに通わせることにしました。3人とも6年生までスイミングを続け、区、市の水泳大会に出場しました。私は3人とも市の水泳大会に出場できたことをとてもうれしく、また誇りに思っていました。

でも、子ども達が大人になってからスイミングについて話をする機会があり、「行くのが嫌だった。」「辞めたかった。」という言葉聞き、ショックを受けました。当時は怒られると思って言えなかった、言っても聞いてくれないと思った、そうです。自分が水泳をやっていたから子どもにもやらせたい、習い事は途中で辞めるべきではない、という親のエゴだったのかな、子どもに圧力をかけていたのかなと、振り返って考えてしまいました。

「辛くてもがんばる」「最後までやる」ことで、やり通した達成感や、自分はやればできるという自己有用感を得ることができる、というよさもあり、子どもたちも「でも、がんばっ

たよね。」とお互^{たが}いを讃^{たた}え合^あっていたこと、泳^{およ}ぐことはいまだに好^すきなことが救^{すく}いでした。
けれども、大人^{おとな}の一方的^{いっぽうてき}な思^{おも}いや都合^{つごう}で進^{すす}めるのではなく、子^こども^{はなし}の話^{おも}や思^きいを聞^きいたり
、また、自^じ分^{ぶん}の思^{おも}いや願^{ねが}いを伝^{つた}えたりして話^{はな}し合^あい、お互^{たが}いに納^な得^{とく}できる方^{ほう}法^{ほう}を導^{みちび}き出^だす
ことも大^{たい}切^{せつ}だったなあと、今^{いま}振^{かえ}り返^{おも}って思^{おも}っています。